



花園大学 教員 学生 職員 おすすめ図書

2017 MARCH 新入生歓迎号

花園大学の先生、図書館司書資格課程を学ぶ本好きの学生たち、事務職員が選んだ、皆さんにぜひ読んで欲しい本のリストです。コメントを付けて、図書館1階の「おすすめ図書コーナー」に配置してあります。貸出することもできます。貸出期間は1週間、貸出延長はできません。

花園大学情報センター（図書館）

教員のおすすめ図書

v.6.0 2017 MARCH



100の思考実験：あなたはどこまで考えられるか

ジュリアン・バジーニ著

紀伊國屋書店

2012.3

第21代 学長

丹治光浩

楽しく哲学する本

<請求記号>

107/B 14

「結果がよければ何をしてもいいのか」「何をもって同じとするか」「コンピュータは心を持てるか」「過去の約束はどこまで守るべきか」「動物の権利をどこまで認めるか」「他人に心があるとなぜわかるのか」「聞く人がいなくても音は存在するのか」など100の思考実験を通して物事の本質に迫るスリリングな一冊です。簡単に結論を出すのではなく、考えることそのものの意義と楽しさを見出してください。類書に『人生に必要な哲学50』（近代科学社）もあります。機会があれば併せて読んでください。



仏教史研究ハンドブック

佛教史学会編

法藏館

2017.2

文学部 仏教学科

吉田叡禮

仏教の歴史を学びたい人のために

<請求記号>

182/B 87

仏教の歴史を研究しはじめる初学者に適したテキストです。「インド、アジア諸国・地域、中国・朝鮮半島、日本の“仏教史”に関する研究テーマを地域横断的、通時代的に見渡しながら、わかりやすくコンパクトにまとめた入門書」です。教育や研究の現場に立つ専門家が集まって執筆・編集。各節ごとに定義・内容・研究状況・課題と展望・参考文献などが記され、最新の研究成果や不朽の必読書がすぐわかります。仏教史をはば広く学び、更に関心の有るところを掘り下げたいときに便利。研究のための基礎資料もリストアップされており、地図や年表もあって、学生にとって「使える一書」となるでしょう。



図書館ノート：沖縄から「図書館の自由」を考える

山口真也著

教育史料出版会

2016.8

文学部 日本史学科

菅修一

<請求記号>

010.1/Y 24

利用者の皆さんは図書館で本を自由に好きなだけ読めます。でも、利用者の皆さんと関わる時、図書館はどのようなことに気をつけなければならないか、いろいろ論点があるのです。例えば、読書の秘密とか、図書館の中立性などです。「はだしのゲン」が学校図書館の書庫に片付けられ、市長の命令で役所に保管されてしまった事件がありました。そこには読書の自由に関する論点がありました。このような図書館と利用者そして本に関する論点を著者の勤務先がある沖縄に根ざして、エッセー風にやさしく論じています。



中華中毒：中国的空間の解剖学

村松伸著

筑摩書房

2003.6

文学部 日本史学科

中野渡俊治

<請求記号>

ちくま学芸文庫
/ム-1-1

やめられない、とまらない中華へのあこがれ。日本やアジア諸国を魅了し、呪縛し続けてきた中華。中華とは何か？。この本は、中華文化について、建築や礼秩序、食べ物、そしてゴジラまで登場して考察しています。

また中華に取り憑かれ、中毒症状となった国々や、その一方で中華のおいしいところだけを、つまみ食いするような国も出てきます。

一度読んだだけでは、全体像がつかみにくいかもしれません。しかし何度も読んでいくにつれて、中華文化の奥深さが見えてくるのではないのでしょうか。



小原直回顧録

小原直著

中央公論社

1986.1

文学部 日本史学科

松田敬之

<請求記号>

中公文庫/お-32-1

小原直という人物を知らない人は多いかもしれませんが、戦前、司法・内務・厚生各大臣、戦後は法務大臣をつとめた司法官僚・政治家です。検事出身で、歴史の教科書でも登場する大逆事件、シーメンス事件等でも捜査に関わりました。本書はこの小原が担当した戦前期の事件等について詳述された回想録です。戦前の司法界がどのようなものであったのか、一度手にとって読んでみたいと思います。



コンピュータが小説を書く日：AI作家に「賞」は取れるか

佐藤理史著

日本経済新聞出版社

2016.11

文学部 文化遺産学科

佐藤円

<請求記号>

007.13/Sa 85

2016年3月、コンピュータが「執筆」した短編小説が、文学賞(星新一賞)の一次審査を突破したことが報道されました。この本は、「コンピュータによる小説執筆」のメイキング＝ストーリーです。コンピュータの専門知識がなくても大丈夫。「コンピュータが小説を執筆する」ということは、いったいどんなことなんだろう？ どうやって作品を書いているんだろう？ という疑問に答えてくれます。



一流コーチのコトバ：星野仙一、ザッケローニ、浅田真央、エディー・ジョーンズらの至言

松瀬学著

プレジデント社

2014.3

文学部 創造表現学科

山本清文

やる気、元気が出るコトバの本

<請求記号>

780.28/Ma 87

様々な舞台を経験してきたスポーツのコーチや選手が、それぞれの立場から、かける思いを言葉に託した本です。勇気づけられたり、迷った時に背中を押してもらえたり、自分の信念が間違っただけでなかったなど、前向きに考えさせてくれる本です。



質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学

岸政彦著

有斐閣

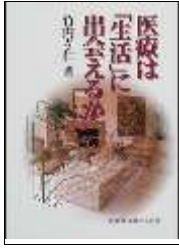
2016.12

社会福祉学部 社会福祉学科 西岡秀爾

<請求記号>

361.9/Ki 56

「フィールドワーク」、「参与観察」、「生活史」という3つの代表的調査法がわかりやすく紹介されています。従来のマニュアル本とは異なり、一冊の読み物としてワクワクさせられる内容です。3人の社会学者が「数字を使わない調査(質的調査)」の方法を、手取り足取り教えてください。卒業論文や自由レポートで何をテーマにしたらよいのかを思案中の皆さん、是非とも手にとってみてください。読後、調査したくなっている自分に出会えます。



医療は「生活」に出会えるか

竹内孝仁 著

医歯薬出版

1995.9

社会福祉学部 社会福祉学科 福富昌城
生活とは何かを考えるヒントになります

<請求記号>

369.26/Ta 67

本書には、日本の特別養護老人ホームの黎明期の貴重な取り組みが描かれている。

著者はリハビリテーションを専門とする医師であるが、「オムツ外し」「寝食分離」などの、今では当たり前となっているケアのあり方を提唱した人で、その取り組みをすすめる過程でのやりとりなどが非常に興味深く描かれている。

医師の立場から生活とは何かを考えた本書から、利用者の生活を支援する「社会福祉」の立場にいるわれわれが学ぶことは多い。



アメリカの教室に入ってみた：貧困地区の公立学校から超インクルーシブ教育まで

赤木和重 著

ひとなる書房

2017.1

社会福祉学部 児童福祉学科 山口真希

<請求記号>

372.53/A 29

みなさんはどのような学校体験を持っているでしょうか。例えば小学校では、教室で授業を受けるときには背筋をピンと伸ばす、給食は挨拶をしてから一斉に食べ始める、というように守るべきルールがたくさんあったのではないのでしょうか。本書を読むと、日本の“当たり前”が世界的には“当たり前”でないことに気づかされます。アメリカのとある学校文化に触れることで、日本の取り組みの一つひとつが相対化されていき、教育で大切にしたいことをじっくり考えさせられる一冊です。



犯罪心理学事典

日本犯罪心理学会編

丸善出版

2016.9

社会福祉学部 臨床心理学科 橋本和明

犯罪心理を勉強したい人には必見

<請求記号>

R326.34/N 71

犯罪心理を勉強したい人はこれ一冊ですべてがわかるというぐらい、過去から現在の最新の研究知見まで網羅したものです。

すべてを読まなくても、関心のある部分をのぞき見することでもいいと思います。きっとより関心が広がると思います。



保育者を生きる：専門性と養成

日本保育学会編

東京大学出版会

2016.4

社会福祉学部 児童福祉学科 吉田貴子

保育や幼児教育に関心のある方・保育者を目指す方向け

<請求記号>

376.1/N 71/4

保育とはどのようなことなみであり、保育者の役割とは何かについて、この本を読みながらじっくり考えてみませんか？

複数の筆者によって様々な角度から保育者について書かれた本であり、関心のあるテーマに出会うことができると思います。